

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4094933号
(P4094933)

(45) 発行日 平成20年6月4日(2008.6.4)

(24) 登録日 平成20年3月14日(2008.3.14)

(51) Int.Cl.

F I

C 1 4 C 1/00 (2006.01)
B 6 8 F 1/00 (2006.01)
D O 6 P 1/44 (2006.01)
D O 6 P 3/32 (2006.01)

C 1 4 C 1/00
 B 6 8 F 1/00 A
 D O 6 P 1/44
 D O 6 P 3/32 Z

請求項の数 7 外国語出願 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2002-323663 (P2002-323663)
 (22) 出願日 平成14年11月7日(2002.11.7)
 (65) 公開番号 特開2003-193100 (P2003-193100A)
 (43) 公開日 平成15年7月9日(2003.7.9)
 審査請求日 平成17年7月1日(2005.7.1)
 (31) 優先権主張番号 M12001A002715
 (32) 優先日 平成13年12月20日(2001.12.20)
 (33) 優先権主張国 イタリア(IT)

(73) 特許権者 502404966
 マリウツチア・マツツオーラ
 イタリア国、20138・ミラノ、ピア・
 メチエナーテ、115
 (74) 代理人 100062007
 弁理士 川口 義雄
 (74) 代理人 100105131
 弁理士 井上 満
 (74) 代理人 100113332
 弁理士 一入 章夫
 (74) 代理人 100114188
 弁理士 小野 誠
 (74) 代理人 100103920
 弁理士 大崎 勝真

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 手塗り天然皮革、その製造方法、ならびにその手塗り皮革から製造した物品

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

手塗り天然皮革であって、前記皮革は、単純な塩蔵および脱脂処理が行われているが、なめし処理は行われておらず、その少なくとも一方の表面は、1%から20%の顔料、50%から75%のアクリル/ポリウレタンバインダー、1%から5%のタンパク質増粘剤、1%から5%のN-メチル-2-ピロリドン、1%から5%の2-エチル-ヘキサノール、最大0.25%のアンモニア溶液、および10%から20%の水(これらのパーセント値は重量を基準にしている)を含む染料を使用して、塗装、表示、または画像が手で適用されている前記手塗り天然皮革。

【請求項 2】

手塗り天然皮革であって、前記皮革は、少なくとも一方の表面が削り取られるとともに単純な塩蔵および脱脂処理が行われているが、なめし処理は行われておらず、その表面は、1%から20%の顔料、50%から75%のアクリル/ポリウレタンバインダー、1%から5%のタンパク質増粘剤、1%から5%のN-メチル-2-ピロリドン、1%から5%の2-エチル-ヘキサノール、最大0.25%のアンモニア溶液、および10%から20%の水(これらのパーセント値は重量を基準にしている)を含む染料を使用して、塗装、表示、または画像が手で適用されている前記手塗り天然皮革。

【請求項 3】

摩耗、擦傷、および水分に対して抵抗性である染料で塗装した天然皮革を得る方法であって、塩蔵および脱脂処理が行われているが、なめし処理は行われていない天然皮革が、

請求項 1 に記載の染料または染料混合物で塗装される方法。

【請求項 4】

摩耗、擦傷、および水分に対して抵抗性である染料で塗装した天然皮革を得る方法であって、塗装される面が削り取られている表面を有する塩蔵および脱脂処理が行われているが、なめし処理は行われていない天然皮革が、請求項 1 に記載の染料または染料混合物で塗装される方法。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の染料で手塗りが行われる前に、処理される前記皮革表面に、0.2% から 10% の少なくとも 1 種類の反応性染料、約 0.25% の少なくとも 1 種類の保存料、および残部の水（これらのパーセント値は重量を基準にしている）を含む染料の中間層が適用される請求項 3 または 4 に記載の方法。

10

【請求項 6】

請求項 3、4 または 5 に記載の方法によって得られる手塗り天然皮革。

【請求項 7】

請求項 1、2 または 6 のいずれか 1 項に記載の手塗り天然皮革を使用して得られる衣類、皮革製品、スーツケースの物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、手塗り天然皮革、それらの製造方法、ならびにそれらの皮革から製造された物品に関する。

20

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】

これらを保存するために、天然、すなわち動物の皮革は、塩蔵処理と脱脂処理が行われた後に、なめし、および厚さを一定にするための機械的な平坦化が行われることが知られている。この方法でなめした皮革は裁断され、着色され、互いに縫い合わされて、衣類、皮革製品、スーツケース、鞆など、ベルトおよびその他の装飾具が製造される。従来の皮革および靴用染料などの種々の染料を使用してこれらの皮革の露出面に手塗りをを行い、好ましくは多色の花の絵、パノラマ、あるいはあらゆる種類の装飾的モチーフを形成して、高い芸術的価値があり、魅力的で多様な外観を得る試みが行われてきたが、これまでの結果は品質が低く許容できるものではなかった。その理由は、皮革に適用された着色層が、皮革を折り曲げた場合に亀裂や剥片が生じるような粗く乾いた外観を有するか、ひっかき傷や摩耗に対する色の抵抗性が乏しいか、あるいは濡れた場合に变色したり完全に色が失われたりするからである。

30

【0003】

驚くべきことに、「未加工」の天然皮革に染料を（水で軽く湿らせたブラシやスポンジなどを使用して）適用する場合に、天然皮革を染色することによって、耐摩耗性が高く、皮革表面に接着し、折り曲げに対する抵抗性があり（そのため亀裂や剥片が生じない）、水分や光を透過せずこれらに対して抵抗性であり、長寿命である多色画像を容易に得ることができることを発見し（ここで本明細書において用語「未加工」とは、単純な塩蔵および脱脂を行った後（すなわち従来のなめしを次に行うことができるが、まだなめしは行っていない状態）の皮革を意味する）、すべての市販の染料の中で、ロンドンのダイロン・インターナショナル社（DYLON INTERNATIONAL Ltd.）より商品名「ダイロン・シュー・カラー（Dylon Shoe Colour）」で生産される靴用染料のみが所望の結果が得られることが分かった。この染料は、有機および/または無機有機顔料（1% から 20%）、アクリル/ポリウレタンバインダー（50% から 75%）、2-エチル-ヘキサノール（1% から 5%）、N-メチル-2-ピロリドン（1% から 5%）、タンパク質増粘剤（1% から 5%）、アンモニア溶液（約 0.25% 未満）、および水（10% から 20%）、これらのパーセント値は重量%である。

40

【0004】

50

上述の「未加工」皮革は、汚染されていたり、あるいは動物由来のしみを有したりすることもあるが、この点に関して、ひっかき傷やしみが存在する場合でも染料で完全に覆われた塗装が皮革上に形成される。

【 0 0 0 5 】

好ましくは、ハンドバッグおよびかばんなど、革製ベルトまたはその他の物品の末端部、側面、底部、前部、および背面のカバーの形成に必要な寸法および形状に切断した「未加工」皮革に塗装が実施される。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

より柔らかくし、塗装される染料の付着性を増大させるために「未加工」皮革の表面は軽く削られ、この方法で得た皮革は、直接塗装したり（濡らしたり引き延ばしたりしないため、非常に柔軟な触感を維持できる）、あるいは水で濡らし次に木板上で引き延ばして直接塗装したりすることによって、基本的な黄、赤、青、白、および黒の染料を混合することにより想像を大きく超える色の効果を得ることができ、あらゆる色調の色を得ることができる。着色光沢剤をこれらの染料と混合することができ、塗装面が濡れている場合でも塗装面から分離しないことが興味深い。

【 0 0 0 7 】

上記染料による「未加工」皮革塗装は、塗装する皮革表面を水で軽く湿らせてから、水でぬらしたブラシまたはスポンジを使用して（塗装用のキャンパス上で）手作業で行われる。

【 0 0 0 8 】

塗装後、1日か2日間軽く皮革を乾燥させた後には、着用可能であり、これらの部品を使用して最終物品を製造することもでき、変色する恐れはなく、後に追加の処理も必要としない。

【 0 0 0 9 】

使用した染料は皮革の厚さ方向には浸透せず、その塗装されていない面は元の色および外観を維持することが分かった。

【 0 0 1 0 】

上記「未加工」皮革は、削り取られ濡らされた後で、前述の方法で塗装する前に、前出のダイロン社製の商品名「サテン・シュー・カラー（Satin Shoe Colour）」のサテン専用（絹は除く）タイプとして知られる特殊な染料（0.2から10重量%の反応性染料、約0.25重量%の保存料、および残部の水も含有する）で処理し、次に前述の方法で塗装すると、外観および耐久性に関して品質が向上することが分かった。同じ染料を使用してなめした皮革を塗装すると満足のいく結果は得られず、色が不透明となったり、容易に亀裂や剥片が生じたり、撥水性とならなかったり、容易に退色したり、摩耗やひっかき傷に対して抵抗性でなかったりする。

【 0 0 1 1 】

ダイロン社の上述のタイプの「サテン・シュー・カラー」を「未加工」皮革に適用すると、皮革表面によく付着し、それによって皮革が不浸透性となることはなく、すなわち本来通りスポンジ状で柔軟なまま維持されることが分かったが、なめしたダチョウの皮革に適用した場合には、染料自体は皮革によく付着するが、色あせて不透明なままであり、なめしによる下地の色を全体的に覆うことはなく、なめした子牛の皮革に同じ染料を適用した場合には、特に濡れている場合には染料を容易に除去することができる。

【 0 0 1 2 】

前述の「ダイソン・シュー・カラー（Dyson Shoe Colours）」（単独あるいは混合して）使用する場合には、以下に具体的に述べるように非常に高品質の塗装、表示、またはパターンを得ることができる。

【 0 0 1 3 】

「未加工」皮革の場合、染料自体は皮革表面に完全に付着し、皮革の細かい筋までも再び現れる。その色は、濃く明るい色であり非常に鮮やかな色調であってこれが維持され、皮

10

20

30

40

50

革表面は（薄いプラスチックフィルムで覆われたかのように）なめらかであり、皮革は本来の柔軟性および本来の弾性を維持し、ひっかき傷に対して保護される。皮革を引き延ばしたり折り曲げたりした場合でも、着色層内部に亀裂や破壊の兆候は見られない。適用し乾燥させた後には（塗装面上に何色が現れるかによって2から6日間のあいだを変動する）、色は湿気やぬれに対して敏感ではなく、摩擦や摩耗に対して非常に抵抗性が高く、塗装した皮革は水を透過しない。

【0014】

同じ染料はダチョウの皮革にもよく付着するが、ダチョウの皮革がなめされている場合には皮革全体を覆うことはなく（なめした下地の一部を見ることができる）、同じ結果はその染料をなめした子牛の皮革に適用した場合にも得られ、この場合では乾いた布でこすった場合には色は抵抗性を示すが、濡らした布でこすると部分的に色がとれる。

フロントページの続き

(72)発明者 アイバン・ベソツツイ
イタリア国、20138・ミラノ、ピア・メチエナーテ、115

審査官 佐野 健治

(56)参考文献 特開昭63-264978(JP,A)
特開平07-118700(JP,A)
特開平09-309803(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

C14C 1/00-1/08
B68F 1/00
D06P 1/44-1/673
D06P 3/32